

昭和二十四年度

主将
島 富 沢 東 資
主務
島 富 沢 東 資
審查
進級月次試合

9 ○ 乾	8 ○ 乾	7 ○ 乾	6 5 4 3 2 1 ○ 小	○ 次	4 3 2 1 ○ 小	中 奥 江 江	西 田 沢 沢	倉 敏 三	清 太 郎
田 俊	藤 忠	原 昌	田 泉 信		田 西 田 沢	澤 清 太 郎	倉 敏 三		
利 夫	璋 喜	喜 彦	之						
優 勢	小 内 返	大 内 刈	裸 紋 分	引 分	大 内 刈	引 分	大 外 刈	引 分	引 分

成 友 田 乾 ○	富 加 菅 柴 頭	田 成 加 田 富	四 月 三 十 日
毛 田 中 田 藤 原 田 山		藤 加 田 富	
韶 昌 俊 忠 昌 統		毛 中 田 富	
夫 利 夫 璋 喜 彦 一		韶 統 田 富	

から超満員の盛況であった。出場選士は五段四名、六段

全日本柔道選手権大会

(講道館主催・朝日新聞後援)

五月五日

於 浜町仮設国技館

右の結果、進級、編入せるもの左の如し。	16 15 14 13 12 11 10 ○ 堀 嶋 川
八級へ 小泉信之、頭山統一、柴田昌彦	稻 熊 横 堀 嶋 川
七級へ 編入 中西 敏	横 堀 嶋 川
六級へ 加藤忠喜、富田 璋	堀 嶋 川
五級へ 友田昌利、乾 俊夫、奥田倉三	稻 熊 横 堀 嶋 川
四級へ 嶋川謙一	堀 嶋 川

一〇名、七段二名いすれも一騎当千の猛者である。塾出身の羽鳥輝久六段は緒戦で九州代表の木村政彦七段と当たり惜しくも敗れたが、講道館発刊の『柔道』第二〇巻第七号には、この一戦を本大会の白眉として次の通り記して居る。

『この試合は実質的決勝と見てもよかつた。体格的に梅ヶ谷を思わせる羽鳥、陣幕とも見ゆる木村、破るが如き拍手の中に対す、自然体から木村、二段モーションの大外刈に出す、羽鳥平然として受け流す、木村更に大外刈に行かんとする機先を羽鳥、足払秀妙一閃木村横に倒る。羽鳥攻め手を緩めず、手技足技の猛撃、技すこぶる烈し、木村懸命に防ぎ懸命に攻撃すれば極り技なく、押され氣味のまま延長。

一息吐いた両選手一礼して組んだ一瞬、木村イキナリ鋭き足払をくれて羽鳥の斜に倒れる処につけ入り押え込の氣勢から、起きんとする羽鳥の力の入った左腕を腕カラミに極める。

尚総評の中で、「大会は稀有の盛況であった。選手は各区代表の名に背かずよく奮闘した。近畿の栗津、山本、東京の羽鳥、醍醐、石川、九州の木村の各選手の試合は注目された。殊に羽鳥、醍醐は姿勢、態度、技術に

於て実際に堂々たるものがあり、勝敗を超越した虚心坦懐、すがすがしい試合を見せた。(丸山三造八段記)
本大会の優勝戦は木村七段対石川六段で争われたが、再三の延長の末、遂に引き分けとなり日本一を分け合う結果に終つた。

因みに、羽鳥六段は三〇才、五尺五寸、二六貫、木村七段は三三才、五尺六寸、二三貫であった。

進級月次試合

五月二十四日

審査

五月二十四日

月	審査	中西 敏
六級まで	伊藤 遼	
1○頭	高松 静男	引分
頭	根本 昌幸	優勢
山	遠藤 大島	腰
島	大関 貫寿	腰
島	島 寿一	腰
島	田 飯塚 国基	腰
島	田 中清一郎	腰
島	村 達四郎	腰
島	遠藤 小原	腰
島	水谷 乾	腰
島	藤谷 俊夫	腰
島	三	腰
崩上四方	伊藤 崩上四方	腰
小泉(信)	伊藤 小泉(信)	腰

五級以上

10 ○○	9 ○○	8 ○○	7 ○○	6 ○○	5 ○○	4 ○○	3 ○○	2 ○○	1 ○○	13 ○○	12 ○○	11 ○○	10 ○○	9 ○○	8 ○○	7 ○○	6 ○○	5 ○○	4 ○○	3 ○○	2 ○○
熊 萩 水 奥 小 乾 乾 友 友	田 田 小 小 田 大 饭 伊 伊	中 頭 藤 藤 藤 藤 西 山																			
切 原 谷 田 川 川	田 田	村 原 原 原 中 貫 塚 藤 藤 藤 西 山																			
(昭)	昌																				
	利																				

合 足 技	送 足 技	大 外 落	引 分	大 内 返	袈 裟 固	優 勢	崩 裂 姿	優 勢	合 引 技	足 技	引 分	優 勢	引 分	優 勢	引 分	背 負 投	袈 裟 固	合 引 技	引 分
-------------	-------------	-------------	--------	-------------	-------------	--------	-------------	--------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------------	-------------	-------------	--------

稻 田 坂 (敬 (昭)	萩 水 原 原 谷 (七)	奥 成 田 (倉)	小 遠 川 藤	乾 島 俊 夫	大 川 田 中 貫 塚 (国)	中 高 根 本 (昌 松 (静 藤 藤 西 (敏
--------------------------	------------------------------	--------------------	------------------	------------------	-----------------------------------	--

先鋒
○柴
田
紅白試合
春季大会

大外返
先鋒
川澄
白

六月十八日

右の結果、進級・編入せる者左の如し。
七級へ編入
六級へ
五級へ
四級へ
二級へ
熊切昭男、田坂昭
小川 大島 遠藤
小原 伊藤、田村達四郎、関
高松靜男、根本昌幸

21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11
萩 稲 柴 熊 田 田 柴 萩 柴
原 田 田 田 切 坂 坂 坂 田 原 田

崩 裂 姿	引 分	引 分	優 勢	内 股	引 分	大 外 刈	引 分	優 勢	引 分	合 技	引 分
-------------	--------	--------	--------	--------	--------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------

○	藏 萩 熊 萩 藏 重 原 切	○	稻 藏 萩 藏 稻 重 原 切	○	熊 藏 田 坂 切	○	○	○	○	合	引
---	--------------------------------------	---	--------------------------------------	---	-----------------------	---	---	---	---	---	---

堀 梅 梅 小 乾 乾 石 小 上 友 友 伊 根 田 田 富 中 須 近 近 近 近 柴
越 田 田 原 山 川 村 田 田 藤 本 中 中 田 西 田 田 田 田 田

袈 姿 大 扃 内 大 外 引 分 外 引 分 外 引 分 外 引 分 外 引 分 外 引 分 外 引 分 外
固 内 返 外 返 外 返 分

○
太 太 横 横 横 鈴 鏡 水 中 成 奥 遠 遠 飯 加 加 常 羽 高 信 浜 伊 伊
田 田 倉 倉 倉 木 川 谷 島 毛 田 藤 藤 塚 藤 藤 松 成 松 太 谷 坂 坂

先 輩 対 現 部 員
先 輩
○
松 松 荒 荒 荒 荒 荒 荒 成 成 水 渡 荒 友 田 田 柴 柴 藏 藏 萩 萩
尾 尾 木 木 木 木 木 毛 毛 谷 部 木 田 坂 坂 田 田 重 重 原 原

輩

引 分	先 輩	引 逆 体 引 大 外 分 腕 緘 落 分 刈	引 引 足 裂 合 足 分 分 扃 固 技 扃
水 中 中 成 奥 友 遠	現 部 員	大 將	○ ○
谷 島 島 毛 田 田 藤		大 將	飯 島 島 宮 宮 笠 菅 熊 熊 鈴 鈴 太

園園園園石石石五五五益益益鈴鈴松松松松松松松
 田田田田渡渡渡島島島子子木木木尾尾尾尾尾尾尾
 英 次
 康 二 潔 雄

引 分 引 分

○水宮渡笠荒友熊田鈴柴藏太太横萩萩鈴堀蟻梅小乾石
 谷崎部原木田切坂木田重田田倉原原木越川田原山
 武慶昌昭昌彰伸永忠謙俊
 隆剛彦治利男昭昇彦男兒一義一夫

月 審												
進級月次試合												
7	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
中	中	中	清	柴	頭	小	赤	河	河	河	桑	中
西	西	西	水	田	山	泉	尾	合	合	合	田	西
			統		清		靖		大			
敏	齊	一		司		之	明	敏				

引	大	肩	引	引	引	引	引	優	大	優	大
外	外	固	分	分	分	分	分	勢	內	刈	外

近	清	高	高	小	柴	頭	水	堀	奧	閔	成
田	水	松	松	泉	田	山	谷	越	田	毛	水
富		靜		統			七	忠	倉	韶	
男		男		一			三	義	三	夫	齊

大將	○	羽	水	石	富	富	○
鳥	谷	渡	沢	沢			下野川
輝	英	顯					英國
久	男	一					郎男
大將	○	○	成	飯	飯	島	水
毛	塚	塚	成	飯	飯		
雅			塚	塚	塚	塚	谷
臣			塚	塚	塚	塚	
七	月	九	日				

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8
 鈴 堀 萩 蔵 梅 梅 遠 伊 伊 小 遠 水 大 上 桑 河 成 田 田 田 田 根 近
 木 越 原 重 田 田 藤 藤 原 藤 谷 島 村 田 合 毛 中 中 村 村 本 田
 七 大 靖 韶 富
 昇 三 明 之 夫 男
 大 横 足 引 引 合 大 送 引 引 引 大 外 引 引 引 製 立 優 足 優 引 大 外
 外 刃 四 扱 分 分 技 腰 紋 分 分 分 外 反 分 分 分 國 反 紋 勢 扱 勢 分 反
 ○ ○ 乾 蔵 赤 萩 堀 赤 梅 遠 根 伊 友 遠 水 大 上 桑 河 成 奥 田 閣 田 ○
 重 尾 原 越 尾 田 藤 本 藤 田 藤 谷 島 村 田 合 毛 田 中 村 本
 俊 忠 清 七 大 靖 韶 倉
 夫 義 司 三 明 之 夫 三

右の結果、審判 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31
 三級へ 堀越忠義 四級へ 水谷七三 五級へ 编入 六級へ 頭山統一 七級へ 進級・編入せし者左の如し。
 横四方 大内返
 島 優 優 引 内 優 引 内 股 卷込
 島 優 優 引 内 優 引 内 股 卷込
 鈴 美 柴 美 柴 稲 柴 美 鈴 美 蔵 乾 堀
 木 沢 田 沢 田 田 田 切 沢 木 重 越
 正 朋 勉 朋

柔友会報告より

七月十五日

夏季遠征合宿

八月 於 松本滴水館道場

実施月日の詳細記録は残っていないが、この夏戦後初の夏季遠征合宿が行われた様子を稻田敬君は部報復活第一号に掲載の「卒業に際して」の一文中に次の様に記している。

（前略）その後段々と部員もふえて来、昭和二十四年夏に終戦後始めての遠征合宿を松本の清水先生の滴水館道場で出来る事になり、春から楽しみにして合宿費をかせぐのに佐々木硝子と云う会社に皆で勤め、朝から晩まで魔法瓶の底にスタンプを、今は先輩になられた水谷隆さんと向い合って、ペタペタおしたのも昨日の様に思いい出されます。

合宿は十日間だったと思いますが、総勢二十三人で、島さん始め皆元気で松本へ乗り込みました。唯友田君が盲腸炎で不参加だったのが淋しさを感じさせましたが、合宿所は宮田自転車の松本工場の中で、道場まで一里ぐらいあって、朝弁当を持って道場まで走って行き、午前と午後稽古をして、夜は一日交替で道場の人と稽古をし、それまで我流に走って居た我々の柔道を順序立つて教えていただき非常に有意義であった合宿だったと思つ

昭和二十四年七月十五日

三田柔友会長 岩崎清一郎



信州松本の滴水館道場（清水正一館長）に合宿

月 審

8	7	6	5	4	3	2	1	次	3	2	1
高	近	頭	橋	橋	橋	橋	鈴	宮	宮	宮	宮
松	田	山	本	本	本	本	木	野	野	野	野

進級月次試合

九月十九日

て居ります。合宿中成毛（英）さんがアロハパンツをはいて居て町の人達が「あんた方放送局さ歌さ歌いに来た衆づらけし」なんて云われて大笑いしたものでした。
その後部員数も増え合宿も鐘紗の山科・中島・淀川等の工場で毎夏の様に出来るようになり、二十五年十二月には体育会に復活して、今日の様に盛んになり四・五年前がうその様に思われます。（後略）」

体 優 体
落 勢 落○ 横 沢 河
木 原 合
高 近 頭 菅 柴 川 橋
内 松 田 山 原 田 澄 本

合 外 判 引 大 外 落 足 扯 技 技 技 技

右の結果、進級・編入せし者左の如し。

審判	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
成毛五段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
渡部一段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
荒木初段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太
	原田																					
	越野																					
	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松

昇

右の結果、進級・編入せし者左の如し。

九級へ 鈴木正毅

八級へ 橋本

六級へ 近田富夫 高松静男

五級へ 根本昌幸

四級へ 成毛韶夫

三級へ 鈴木 昇

三級へ 編入 宮野宇雄

二級へ 太田伸児

東西柔道対抗試合

十月二十九日 於 大阪市仮設国技館

全日本柔道連盟の結成を記念し、全連と大毎の共催、講道館の後援で挙行された。塾出身の羽鳥六段と水谷五段は共に東京選出の東軍選士として出場、両軍各々三十名の内、羽鳥六段は東軍の大将、水谷五段は先鋒から七人目で奮戦したが西軍が三将以上を残して制覇した。

「柔道第二一卷第一号」掲載の記事を抄録すると。

(+) 西は香川の杉谷五段、東はの東京の水谷五段、水谷はいつも立派な姿勢、立派な勝負をする選手、右に組んだかと見るうち杉谷の剛を大内刈で二度刈り一本に合せ、次の橋本に当る橋本は武専出身の英、姿勢態度頗る

よし、水谷体落で攻めたが動ぜず、続けて大内で攻めた處を鮮かに返して勝つ、いい勝負だった。

(二) かくして東は主将羽鳥六段、西は四将吉松六段となつた。

共に自然体から足技、腰技で虚実を尽し、吉

松、羽鳥の釣込腰を外し寝技につけ入り盛んに攻むる。

羽鳥ウツ向きの姿勢となつて防ぐ、吉松、羽鳥の体に並

行して立たんとする羽鳥を制し、逆技か絞技に極めんとす、羽鳥先を読んで「許さず、吉松遂に攻めあぐんで立

ち、大きく跳腰にゆけば、羽鳥それに乗るが如くつけ入

りつつ軽く払つた足払は頗る軽妙「技あり」となつた。

吉松「しまつた」と言う顔つきで更に攻撃したが無為。

西は三将松本六段出で、互に右自然体に組んで羽鳥が

右、左に移行せんとした一足長、松本の追込みざまに掛けた大外刈、鋭く切れて羽鳥遂に倒る。一分を出でず、

この時の羽鳥の姿勢は自然体から直立不動体に見え、そ

こに松本が少し斜からかけた大外刈がカギのように直角にかかり羽鳥が烈しい音を立てて倒れた、勝つも負くる

も大選手らしい試合振りであった。

試合は概して立派だった。両軍共よく戦つた。就中、醍醐、羽鳥、松本、吉松各選手の試合は手に汗を握るものがあり、戸高、朝飛、橋本、水谷、大沢各選手の体捌

きと技は軽妙ですがすがしく感じた。(まるやま生記)

(まるやま生記)

進級月次試合

十月二十一日

審査

○友田

1 毛塚英敏
2 中西

○毛塚

1 ⊖木内
2 毛塚英敏

○奥田

1 ⊖木内
2 奥田英敏

○柴田

1 ⊖木内
2 鈴木英敏

○木村

1 ⊖木内
2 成田英敏

○木田

1 ⊖木内
2 奥田英敏

○田村

1 ⊖木内
2 鈴木英敏

○木倉

1 ⊖木内
2 中西敏

○柴田

1 ⊖木内
2 中西敏

○木倉

1 ⊖木内
2 柴田柔

○木倉夫

右の結果、進級・編入せる者左の如し。

七級へ 中西敏
六級へ 編入 毛塚英敏
五級へ 木内柔

第四回 国民体育大会柔道大会

十一月三日 於 講道館

本大会は四十四都道府県より三人一組の代表を一組宛

出して、トーナメント式に優勝を決する。塾出身、水谷英男五段は醍醐六段、伊藤五段と東京チームで出場、全戦六試合を全勝で飾って優勝した。準々決勝以降の戦績左の通り。

準々決勝

決		準決勝		東京	
○水谷	○伊藤	○醍醐	○伊藤	○醍醐	○伊藤
谷 藤 東	伊 藤 東	谷 藤 東	伊 藤 東	英 信 京	英 信 京
英 信 京	伊 藤 東	醍 嶋 英 信	伊 藤 東	英 信 京	伊 藤 東
男 夫 (5)	伊 藤 東	英 信 京	伊 藤 東	男 夫 (5)	伊 藤 東
大 内 刈 跳 腰	伊 藤 東	英 信 京	伊 藤 東	男 夫 (5)	伊 藤 東
大 内 刈 跳 腰	伊 藤 東	英 信 京	伊 藤 東	男 夫 (5)	伊 藤 東
森 幸 石 山 川	河 伊 徳 熊 安 武 福 岡	田 東 永 賢 二 (3) 均 (4)	石 橋 毅 次 郎 (4)	重 松 正 夫 (3)	福 岡
幸 次 郎 (4)	河 伊 徳 熊 安 武 福 岡	田 東 永 賢 二 (3) 均 (4)	石 橋 毅 次 郎 (4)	重 松 正 夫 (3)	福 岡
一 (4)	河 伊 徳 熊 安 武 福 岡	田 東 永 賢 二 (3) 均 (4)	石 橋 毅 次 郎 (4)	重 松 正 夫 (3)	福 岡

○醍醐敏郎(6) 崩上四方 伴庭一秀(5)

三田体育会結成総会

十一月五日

会長に平沼亮三氏を推し、体育会の各部卒業生が集まり体育会の後援を行なうとともに、会員相互の連絡と親睦をはかるを目的として発足した。

第三回早慶O・B柔道戦

十一月二十七日(日) 講道館

試合人員及方法 二五名宛の高点勝負
審判 工藤一三師範 高木喜代市師範

先鋒 鈴木正明(4) 隆(3)

三田

10

—

7

稻門

○木村	○横田	○飯塚	柿原	水谷	木正明(4)	左大腰	先鋒○帽田	○小野寺(3)
井 渡 由 富士 頭 一 (4)	横田 康 (4)	坂毛 一 (4)	英臣 (5)	原 (3)	隆(3)	大外卷	大外卷	大外卷
大 内 刈 合 技	大 内 刈 合 技	大 内 刈 合 技	大 内 刈 合 技	大 内 刈 合 技	大 内 刈 合 技	左体落	左体落	左体落
田 浦 新 藤 島 上	新 藤 島 上	谷 井	谷 井	大 肥	土 肥	松 本	松 本	松 本
島 (4)	(3)	(3)	(3)	(5)	(3)	(3)	(3)	(3)

月 審

2	1	4	3	2	1	查	進級	月次試合	副將	大將	○	○	○	○	○	○	吉
川	川	次	神	神	深	郡			阿 鈴	鰐 五 羽 箱 熊 山 小 富 水 石 吉							
崎	崎		田	田	山				部 木 木 島 鳥 田 谷 崎 坂 沢 谷 渡 川								
晋			雅	一					芳 義 敏 勇 輝 玄 喜			英	英	英		太兵衛	
弥			也	郎					郎 雄 男 雄 久 輔 德 高 隆 郎 男 二	(7) (6) (6) (6) (5) (5) (5) (4) (5)	(5)						
引	背	負	投	裂	姿	固	引	引	左 大 外 判 大 將	裂 妻 固 分	引 鈴 釣 達 腰 分	不 合 分	足 戰 技	引 扯 技	橫 四 方	體 体 落	大 内 判
鈴	田	乾	中	田	大		十二	月十日	佐 佐 三 株 永 永	山 柳 海 成 鈴	○ ○ ○ ○						
木	中		西	村	島				木 木 本 本 船 元 口 沢 濑 田 木 沢 井 村 沢	(7) (6) (6) (6) (6) (6) (5) (5) (5) (5) (5) (4) (4)	(4)						
正	輝																
朋	和																

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
乾	成	奥	木	木	木	郡	田	田	田	中	高	深	清	鈴	頭	西	鈴	
毛	田	内	内	内			村	村	村	村	西	松	山	水	木	山	山	木
俊	韶	倉																
夫	夫	三																
大	外	判	引	體	優	優	大	外	返	大	外	返	引	引	崩	裂	優	横
内	足	返	分	落	勢	勢	負	卷	達	足	返	分	分	妻	妻	分	勢	四方
返																		

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
太	鰐	乾	成	奥	神	大	木	郡	毛	川	田	中	高	深	清	鈴	頭	西
田	川		毛	田	田	島	内		塚	西	村	西	松	山	水	木	山	山
伸	謙	俊	韶	倉					英	達	静							
児	一	夫	夫	三	実				敏	四	郎	敏	男	齊	夫	一	健	朋